

## 平成30年度 第1回 地域連携による活力ある高校づくり推進協議会 議事要旨

日 時	平成30年6月1日（金） 13:30～15:45
場 所	吉城高等学校 会議室
出席者 (敬称略)	<p>布俣 正也 岐阜県議会議員  都竹 淳也 飛騨市長  沖畑 康子 飛騨市教育委員会 教育長  向川原眞郷 古川中学校長  渡辺 正憲 (株)飛騨ダイカスト代表取締役  岡山 正喜 アルプス薬品工業(株)総務担当取締役  池田理佳子 ハッ三館女将  関口 祐太 (有)関口教材店取締役 キャリア教育コーディネーター  川上 佳洋 「夢のたまご塾」飛騨アカデミー実行委員長  上臺 勇 吉城高校同窓会長  岩崎 道夫 吉城高校育友会長  石原 典子 学校評議員(民生委員・主任児童委員)  前川 隆子 学校評議員(主婦)  尾賀 眞平 学校評議員(尾賀書店)  田上 昌広 学校評議員(飛騨古川青年会議所理事長)  仲島 豊 学校評議員(卒業生の保護者)</p> <p>(学校関係者)  鈴木 健 吉城高等学校 校長  大野 貴司 同 教頭  日野 利明 同 事務長  藤守 学 同 教務主任  下嶋 和長 同 生徒指導主事  小原 誠 同 進路指導主事  小澤 耕 同 活力ある高校づくりワーキンググループ長  寺門 隆治 同 理数科主任  鈴木 泰輔 同 キャリア推進部長</p> <p>(県教育委員会)  高橋 宗彦 教育総務課 教育主管</p>
議事概要	<p>1 授業参観(13:40～14:10)</p> <p>2 学校からの説明</p> <p>(1) 学校及び生徒の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒は真面目で前向きであり、学校は落ち着いている。</li> <li>・ 教員がどのような教育を行い、生徒を育てていくかが重要である。</li> </ul>

(2) これまでの経緯と今年度の取組について

- ・ H 2 9 年度協議会での検討の経緯
- ・ 吉高地域キラメキ (YCK) プロジェクトのこれまでの実践と今後の取組について
- ・ 学力と YCK との関連について
- ・ 平成 3 1 年度入学生のカリキュラムについて
- ・ 創立 7 0 周年に向けて等

(3) 資料説明

資料 1 平成 3 0 年度学校経営計画 (マニフェスト)

資料 2 平成 3 0 年度地域連携による活力ある学校づくり推進事業実施計画

資料 3 平成 3 0 年度キャリア教育サポート事業のご提案

未来のためにできること YCK PROJECT 2018

つかめ生き抜く力 YCK PROJECT 2018 YCK リーダー

資料 4 平成 3 0 年度理数教育フラッグシップハイスクール実施計画書

資料 5 吉城高校平成 3 1 年度単位制への移行について

資料 6 高校「開かれた教育課程」～H 3 0 年度以降の授業での地域人材の活用

資料 7 岐阜県立高等学校の活性化に関する検討まとめ<平成 2 9 年度>

3 意見交換

- ・ 推進事業実施計画 (資料 2) にある「事業を通じて目指す自校の具体的な姿」にしぼって、皆さんから、意見・提案・課題等を示してもらったらどうか。
- ・ マニフェスト (資料 1) の項目別数値実績において、家庭学習時間が、H 2 9 年度に大幅に増えているがなぜか。  
⇒この調査は毎年 9 月中旬に調査しており、昨年度は曜日の関係で定期考査に近い日の調査となったため増えたことが考えられるが、学校や学年、担任の指導を充実させた結果、増加したことも事実である。
- ・ YCK プロジェクトについて、自主的な希望者を募ったところ、全校生徒 3 5 5 名に対し、延べ 6 0 0 名以上が手を挙げている。今年度は 1 5 の課外活動を設定し、「事前調査・活動参加・振り返り」といった一連のサイクルの中で、きちんとした記録を残し、新しい大学入試へ向けての準備も整えている。
- ・ YCK の活動が進路 (進学) にどのようにつながっていくかについては、大学入試改革にある「新しい学力」を育成するために必要な体験や経験が、地域というフィールドの中で実践されることに意味があり、YCK の取組によって残った記録 (計画と実践、振り返り等) が生かされることになると考えている。
- ・ 中学校の生徒数の減少傾向は続く。本校の 4 割弱の生徒が吉城高校へ進学する現状から、吉城高校の活性化は地域の活性化にもつながる。また、地域での職場体験学習の充実は、中学生にとって重要な意味を持っている。
- ・ 同窓会としては今年度 7 0 周年を迎え、吉城高校がさらに地域に根付いた学校となるために、同窓会にもご助言をいただければありがたい。
- ・ 高山市からは「遠い」といった印象が強く、交通網の整備が課題である。
- ・ 独自選抜入試は魅力的であり、部活動を活性化させることで、地域とのつながりも強くなる。

⇒独自選抜は、2 9 年度入試まではサッカーだけであったが、3 0 年度入試から、剣道、バレーボール、陸上競技が加えられた。

- ・ 吉城高校の取組について、民生委員の評価は高く、地域から様々な立場の住民が集まる「地区ふれあい集会」では、YCKプロジェクトの話聞くようになってきている。吉城高校の活動を地域が知るよい機会となり、嬉しく思っている。
- ・ 今年度委員を委嘱され、何も知らない中での参加だったが、課外活動のプログラムを見させていただき、学校からの説明を受け、地域のよさを知り自分の長所を発見できれば、地元に残ってくれる若者が増えるのではないかと感じた。
- ・ YCKは地域に根付いてきている。例えば古川祭では、地域のお年寄りが、外国人に道案内してくれる吉城高校の生徒を見ていた。15のプログラムの構成は優れている。昨年の報告会では、幼少のころから知っている生徒が堂々と話をしており、成長を感じ取ることができ大変嬉しかった。進路についても、この活動により関係の大学へ進学できたと聞いた。
- ・ YCKの15の課外活動プログラムは、吉城高校の先生方が、年々積み重ね、検討し、作り上げてきたものであります。
- ・ このプログラムの中で、私たちが関係するものに「はたらく車展」があり、見に来ている子どもたちとの触れ合いはもとより、大人たちとも積極的に話ができ、大変よい活動だと感じている。
- ・ 中学までは地域とのつながりはあるが高校生では途切れてしまう感じがあった。今年度、吉城高校が古川祭の1日を休業日にしたことで、私自身、地域とのつながりが強くなったと感じているし、地域の方も感じている。また、YCKについても地域に根付きはじめ、地域住民が「YCK」といった言葉を使うようになってきている。5年前の参加と比べると、約10倍の生徒がYCKに携わるようになり、ますます地域の人々と繋がっていければよいと思っている。
- ・ メディアで吉城高校の活躍を見るたびに、誇らしく身近に感じるようになった。自分自身、YCK活動の取材に携わることがあったが、生徒は活動を通じて地域を盛り上げるとともに、地域の良さを発見している。また、企業説明会や企業見学、職場体験を企画する側として、子どもたちが職業観や将来像を構築できるような働きかけをしていきたい。中学校でも職場体験が行われるが、企業の側として、先生方が職場体験にどのような思いを持ってみえるのかをお尋ねしたい。
- ・ 大人たちが働く姿を見ることは貴重な体験である。中学校として3日間の日程でお願いしているが、労働体験だけでなく、地域とのつながりや企業としての思い夢など、お話を聞かせていただければありがたいと思っている。
- ・ 企業としては、地元で働いてほしいという思いは強いが、地域との関わり（消防団や祭り）を拒否する若者もおり、地域連携は難しい課題だと感じている。ただ、Uターンしたい若者に対して、企業の魅力を伝えると同時に地域のよさを伝えていくことは必要であり、YCKの活動は、地域の魅力を子どもたちに伝えるために役に立っている。
- ・ YCKの活動は社内でも話される。テーマを与えられ、企画・実行・振り返りといった取組は働いてから重要である。
- ・ 吉城高校の生徒は、庁舎のみならず道端でも挨拶をしてくれる。YCKの活動により、コミュニケーション能力が非常に高くなってきていると感じる。
- ・ 手探り状態から始まったYCKの活動が充実し、他からも好評を得ている。先生方の取組が実を結んできている。
- ・ YCK活動は課外活動が主になっている。学校は日常の授業がメインであるた

め、教科指導において、課題解決学習、主体的な深い学びを積み上げることによって、YCKプロジェクトが発展していくと思う。

- ・ 昨年度の「三寺ミッション」のような課題解決型の活動が、全体の中でバランスよく強化されていくとよい。課題解決能力は4つに分解できる。①課題の発見能力、②解決案の企画能力、③解決案の実践能力、④実践後の改善能力である。市政は常に課題解決であり、YCKの中で同様のステップを踏む「三寺ミッション」には期待する面が大きい。
- ・ 地域課題の発見という点では、様々な教科の授業を通じて、地域を題材にして課題を考え解決していくといった「課題解決型の授業」を取り入れていかれることを大いに期待している。
- ・ 職場体験は、現場を見ることによって労働のイメージを持つことができるので、高校でも中学と同様に実施するとよいのではないかと。
- ・ 生徒数の減少による部活動の存続、特にチームスポーツについては、合同チームや合同練習の検討も必要である。
- ・ 入学生の確保については、魅力ある学校づくりとともに、募集の方法におけるテクニカルな面での工夫が必要である。吉城高校のコース制をPRすることはかなりの効果があると考えられる。
- ・ 高い目標の解決を目指すのではなく、学校として一つの課題やできることへの解決を目指して、YCKや「フラッグシップハイスクール」といった土台を活用しながら、吉城高校の特色を出していくことが大切である。  
また、コミュニケーション能力を高めることは、生きる力を高めることにつながる。プロジェクトを通じて生徒一人一人のコミュニケーション能力が高まるように、学校とキャリア教育コーディネーターが協働し、現在の取組を進めていってほしい。
- ・ 課題解決能力の前に「課題発見能力」があるということを確認できた。YCKを通じて、生徒の想像力・課題発見能力が高まるようにお願いしたい。  
また、吉城高校生の居住地域を考え、YCKのステージを周辺の市町村へ広げていくことも必要だと感じている。

(県教育委員会)

- ・ 吉城高校の地域との連携の取組は、飛騨市のしっかりとしたバックアップのもと進められている。
- ・ 高校学習指導要領の改定や大学入試改革が行われる中、YCKの活動は課外活動ではなく本筋の学習活動になっていくと考えられる。
- ・ 教室の環境整備という点では、授業におけるプロジェクターの活用がみられたが、より優れた施設設備の整備・充実が公立学校の課題でもある。

(学校長)

- ・ 皆様方からのこれまでの様々なご指導やご支援に感謝している。ようやく体制が整いかけたところなので、今後もしっかりと取り組んでいきたい。課題解決能力を身に付けさせ、授業や他の場面においても活用できるように、これからも様々な機会を与えていきたい。また、事業を進めることで教員の多忙化が伴うが、皆様のご協力のもと、仕組み・体制づくりをきちんと行い、教員への負担とならないような取組にしていきたい。
- ・ 今年度の協議会の開催は、2月のYCK報告会後を第2回としてお願いした

	<p>い。9月の柏葉祭（文化祭）、11月の創立70周年記念式典には委員の皆様へのご案内を差し上げるので、ぜひ見学、ご出席をお願いしたい。</p>
--	--